

1 「海と生きる探究活動」の主題について

適切 100%

「海と生きる探究活動」では、身に付けた知識をいかに活用して課題を解決するかが重要となっている。解決すべき課題まで自ら設定するという主体的な態度の育成も目指すという、探究学習の重要性に焦点を当てた良い主題だという意見が多く、次年度も主題・副題とも同じで行いたい。

2 「海と生きる探究活動」の視点の内容や視点に沿った実践は推進されたか。

できた 100%

「海と生きる探究活動」の視点に沿って絞って授業を行うことができた。特に振り返りの視点が有効であった。一方、視点の手立ての有効性の検証について、海洋教育リテラシーとの関連も踏まえた評価基準を明確にすること、学び合い・話合いのスキルなど、他教科との学びの往還による指導を充実させること、振り返りシートを評価や個々の学習の改善に生かすことなど、もっと掘り下げていくべきとの課題が挙げられた。

3 「海と生きる探究活動」の組織と活動内容について

よい 60% どちらとも言えない 40%

「海と生きる探究活動」の授業を作る上で、指導案・授業検討会を実施し、たくさんの方々から意見をもらったり、外部講師を活用したりして大きな成果を得られた。今後も、児童の探究活動を支えるために、担任だけでなく学校全体でのサポートや連携が今後も重要である。

4 「海と生きる探究活動」実践に対する自己評価について

できた 30% どちらとも言えない 70%

小学校で特別の教育課程として探究活動を行う本校の取組は素晴らしい探究学習である。教員一人一人が「海と生きる探究活動」の指導を通じて、学力向上にもつながる授業を実践できた。「答えのない課題」、または「答えが一つ出ない課題」にどう向き合っていくか、教員も悩みながらの指導であったが、そのおかげで児童は、「ふるさと唐桑のために、役立つ大人になりたい」という思いを強く持つことができたと感じる。また、3学年からの「海と生きる探究活動」へのつながりを意識して、1・2年生は生活科の授業作りをし、児童が興味を持って主体的に活動に取り組むことができるように指導・支援を工夫することができた。一方、実践を重ねる中で、深い探究活動に向かわせるためには「課題との出会わせ方」が重要であることも実感させられた。体験や講話など、自分の経験と比べて「すごいなあ」「大変な仕事だ」「解決しなければ」と自分なりの感想を持たせられる課題との出会わせ方の工夫が必要である。